



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
と  
学  
生  
ツムぐ

第51号

2017年8月24日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

## 夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.30

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

# 取材をするSPさん

### 取材すると、見えてくることがある

教職に就くと、「書く」量がすごく増えます。「こんなに書くことが多いとは」と、若い先生はびっくりします。事務仕事だけでなく、子どもとの関わり、論文、通信など、多くの場面で書くことが多くなります。(学生のみなさんには、今のうちから「書く」ことに慣れておくことをすすめます。) また、書くためには、「書く視点・ポイント」を持たないといけません。たくさんものを見て、感じる「感性」も必要です。さらに、読書などのインプットも相当必要です。これらも、このSP活動では、学ぶことができます。



この日、「取材担当」として水野慈SPさんが指名されていました。(わくわく算数教室では、SPの人数に余裕がある時には「取材担当SP」決め、自作の通信を作ることになっています。) 水野SPさんの様子を見ていました。雰囲気を壊さず、さりげなく回りながら、活動の様子をみていました。笑顔で。そして、ここというところでカメラを構えていました。1対1でやっているとなかなか見えないことも、こうしてちょっと離れて見ると「見えてくること」があるんですね。それを水野さんの感性を通して通信にする。思いを発信する。とてもよい実習です。

カメラを向けるときは、頭の中ですごく多くのことを考えます。通信の編集をすでに頭の中でイメージしながら、写真を撮っています。下の左の写真はある子に対するSPさんの関わりが深い場面を撮っています。右の写真は、カーテンに隠れている子どもを撮っています。ここから何が見えるか、それを通信にしてくれます。こんな実習、大学ではなかなかできませんよね。

「書く」ということも学んでいるSPさんたちです。

